鳥大農研報（Bull. Fac. Agric., Tottori Univ.）56　13～18（2003）

バングラデシュの農村調査

吉田　勲*・原田昌佳*
平成15年6月6日
*鳥取大学農学部生存環境学講座

A Study on the Livelihood of Farmers in Bangladesh

Isao Yoshida*　and Masayoshi　Harada*
*Department of Environmental Science, Faculty of Agriculture, Tottori University, Tottori 680-8553,Japan

In this paper, the result of questionnaire survey on demands for living conditions to the individual and the group is reported. The result shows that improvement of educational facilities, expansion of employment opportunities, electric power supply, safer drinking water and substantial medical facilities are strongly demanded from the individual questionnaire, and employment for women, initial education facilities, and safer drinking water from the groups. It became clear from this survey that even the fundamental conditions like food, clothing and shelter in Bangladesh were still not well provided. But, Bangladesh cannot stand on her own feet and has to rely upon the foreign aid.

(Received June 6,2003)

Key words：　education, drinking water, women's role, electricity

はじめに

筆者らは 1999 年からバングラデシュの農村の抱える諸問題の研究に携わっている。前報[9]では 2000 年に行った氾濫湖周辺の Rajshahi district(県)の Bahgmara Thana(郡)内にある氾濫湖周辺にある5農村集落住民の生活実態調査の結果を報告した。調査地区の住民の中で，年収の最も高い人は 70,000TK（1TK は約 2.5 円），低い人は 12,000TK であった。これは毎年繰り返して襲う洪水によって，農地や住宅および住民が洪水被害を受けていることと無関係ではない。そこで，2001 年には，氾濫湖周辺の農村だけにかぎらず，洪水を受けない地区をも調査対象地区に入れ，バングラデシュの農村の全体像を明らかにすることを試みた。その結果をここに報告する。

調査集落と調査方法

調査は 2001 年の夏に行った。調査地区と調査日を第1表に示す。調査地区はバングラデシュ南部の Khulna district にある3集落(Village)，Jessore District の4集落，首都ダッカの北にある Mymensignh District の3集落と南東部の丘陵地帯にある Rangamti　District の3集落の合計13集落である。

調査地区の主な特徴は下記の通りである。Khulna District と Jessore District は，バングラデシュの南西に位置し，ジュート産業，魚やエビの加工やマッチの生産が盛んな地区である。Mymensinghh　は Dhaka Division の北部に位置し，ブラマプトラ(ジャムナ) 川とメグナ川のデルタの中心に位置し，高品質のジュートと米が生産されている。Rangamati はバングラデシュの東南の高地に位置するカプタイ湖岸にあり，洪水はなく，緑の多い地

第1表　調査地区

	Village	Union	Thana	District	Date
1	Rangiamari	Jalma	Batiaghata	Khulna	July 29,2001
	Shachubuniya	Jalma	Bahaghata	Khulna	July 29,2001
3	Kochubunia	Jalma	Bahaghata	Khulna	July 29,2001
4	Karaitala	Darajhat	Bagarpara	Jessore	July 31,2001
5	Mohiran	Darajhat	Bagarpara	Jessore	July 31,2001
6	Pothepur	Pothepur	Sadar	Jessore	July 31.2001
7	Talbaria	Dohakula	Bagharpaa	Jessore	July 31,2001
8	Boyra Valuka	Boyra	Sadar	Mymensingh	August 3, 2001
9	Sutia Khali	Bhabokhali	Sadar	Mymensingh	August 3, 2001
10	Bhabokhali	Bhabokiali	Sadar	Mymensingh	August 3, 2001
11	Dewanpara	Jagrabill Mouja	Sadar	Rangamati	August 5, 2001
12	Dran Miar Pahar	Jagrabill Mouja	Sadar	Rangamati	August 5, 2001
13	Omda Miar Pahar	Jagrabill Mouja	Sadar	Rangamati	August 5, 2001

区である[1]。

調査方法は聞き取り調査で，あらかじめ，集落に調査日を連絡し，集落の主な人に集まって頂き，そこで，各集落で一人の人に家族情報を，また，集まった人々に集落全体のことを尋ねた。第2表に家族情報を聞いた人の年齢，家族の意思決定者，家族人数を記す。第2表に示すように，被アンケート者は男性11人，女性2人であった。

第2表　回答者の年齢等

	回答者	年齢	決定権者	家族人数
1	主人	65	主人	6
2	息子	24	父	2
3	主人	32	主人	2(結婚)
4	主人	65	主人	2(結婚)
5	主人	32	主人	2(結婚)
6	主人	41	主人	2(結婚)
7	主人	64	主人	8
8	主人	75	主人	2(結婚)
9	主人	50	主人	2(結婚)
10	主人	64	主人	2(結婚)
11	妻	50	息子の娘	7
12	主人	57	主人	8
13	妻	52	妻	2(結婚)

た。これらの人に「家族の意思決定者は誰か」と問うたところ，13人中11人が主人，2人が女性と答えた。このことから，バングラデシュの農村は圧倒的な男性社会であることが分かる。

結果と考察

最初に家族情報についてのアンケート結果について述べる。

1. 要望

「いま，最も困っている事は何か」との問いに複数回答をしていただいた。その結果を第3表に示す。最も要望の高かったのは「教育の問題」であることが分かる。被アンケート者13人全員が教育改善をあげ，しかも，順位の1位にあげた人7人，2位に4人，4位に2人であった。

2番目に要望の高いのは「雇用・技術教育・収入に繋がる職場の要求」の9人，3番目に多い要望は「バランスの取れた食事と電気」の7人，4番目に高いのは「安全な飲料水，衛生施設の充実」の6人，次いで，「通信・衛生施設の充実」の5人，「自作農地への要望」の4人であった。その他に，「近代的な農業機械」，「貧困者の収入源確保」，「資本不足」，「就業年齢婦人の職場不足」などがある。

農業は主として畜力と人力で行われており，日本で見られる農業機械は殆ど使用されていない。牡牛は高価で貧農には手が出ない。しかも，その牡牛も不足気味であるため，土地の30%が未耕作のままであるといわれる(The Independent, August 21,2000)。

以上のことから，教育，職場，電気，飲料水，食料，病院，農地といった住民生活に不可欠で，基本的な制度や施設が整備されていないことが分かる。

2. 年収

表4に家族の収入源，年収，貯蓄の有無，その目的および食料の自給について問うた結果を示す。年収は，18,000TK～144,000TK と大差がみられる。貯蓄をするゆとりのある人は72,000TK 以上の5人（13人中）で，その目的は投機と将来のためであった。昨年度の調査地区[9]の最高収入は 70,000TK であったから，今回の調査地区にはかなり裕福な人が多い。その理由は，本年の13の調査集落で洪水被害を受けたのは1集落だけと少なかったことにあると思われる。第4表の番号2の人は，その洪水被災地の人であったが，幅広い商売を行っているお陰で例外的に裕福であった。商人，農業と商業，農業と給与生活をしている人は農業だけの人よりも裕福であった。一番収入の少ないのは園芸師の 18,000 TK，ついで24,000TK の給料生活者であった。なお，この国の年間平均所帯収入(1991～1992)は40,092TK である[6].

3. 食料の自給

食料の過不足について問うたところ，135,000TK と144,000TK の年収のある2人が余剰，36,000TK 以下の家庭の4家族が不足と答えた。しかし，年収 36,000TK の人は3人おり，そのうち2人は自給していると答えた。

第3表　個人的要望

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	合計
教育改善	7	4		2			13
雇用・技術教育・収入施設の欠如			5	2	2		9
バランスの取れた食事	1	1			5		7
電気不足			1			6	7
安全な飲料水	2	2	2				6
衛生（医療）施設不足		2	3	1			6
通信施設不足		2	1	2			5
自作農地不足	1			1	2		4
近代的な農業機械	1				1		2
貧困者の収入源確保		2					2
資本不足			1	1			2

このことから，年収 36,000TK が生活の安定と不安定の境界かと考えられる。

4. 住宅の建設資材

屋根が藁，竹，椰子の葉，壁が藁，床が土の家が5人，屋根がトタン，壁がトタン，床が土の家が4人，屋根がレンガ，壁がセメントとレンガ，床がレンガとセメントの家が一人，屋根がトタン，壁が泥，床が土の家が二人，屋根がトタン，壁がレンガと土，床が土の家が一人，屋根がトタン，壁が藁，床が土の家が一人とほとんどの人が土とワラとで造った家に住んでいる。トタンやコンクリートを使った家は裕福な家である。

5. トイレットのタイプ

生活環境の快適さのバロメータの一つであるトイレは水上雪隠3人，素掘りの穴5人，小屋（Open latrine）5人と非常に粗末なものである。雨が降ると，これらのトイレは水で溢れ，周辺の水環境を汚す。これを改善するために ITN の Noor Mohammed Kazi 博士(International

第4表　家族の年収，出費，貯蓄および食料

番号	収入源	収入	貯蓄	貯蓄の目的	食料
1	農業	40,000	0		自給
2	商売	72,000	7,000		自給
3	農業	36,000			不足
4	商売	120,000	10,000		余剰
5	給料	24,000			不足
6	農業，その他	30,000			不足
7	農業・商売	144,000	34,000	投機・将来のため	余剰
8	農業．給料	135,000	25,000	投機・将来のため	余剰
9	農業．給料	90,000	20,000		自給
10	農業	60,000			自給
11	農業	36,000			自給
12	農業	36,000			自給
13	園芸師	18,000			不足

Training Network Center for Water & Waste Management)[5]は土あるいは砂で盛った，水没しない高いトイレを提案している。村々には池があり，その池は衣類や食料の洗濯の場であり，人と家畜が一緒に水浴する場でもある。その池にはバングラデシュに多いコロイド分が流れこみ，浮遊し，常に濁っている。この水の浄化も今後の課題である。

6. 労働の場

大部分が農業に従事しているので，農繁期には農業に忙しいが，農閑期には仕事のないのが悩みの種である。バングラデシュの主要産業は農業，縫製品・ニット製品業，水産業，ジュート加工業である。Khulna 地区ではエビの養殖が盛んで，Mymensignh や Rangamti district に比べ雇用の機会は多いものの絶対数は不足している。向井[3]も指摘しているように，農業労働者，日雇い土木作業従事者は特に農閑期に就業機会が少なくなり，収入に事欠く。彼らの就業機会の確保は農村の安定のためには急務であるばかりでなく，大都市への出稼ぎ者を農村で吸収できれば，大都市で起きている様々な都市問題の激化を緩和できる。

7. 病気になったときの対処

家族が病気になった時の対応を聞いたところ（第5表），ほとんどの人が現代医薬に頼っており，医者に見てもらうのは一人であった。昔ながらの薬草のみの人もいる。中には呪いに頼る人もいる。これは医者にかかる金や薬を買う金がないからである。病気になった場合，連絡する通信手段がないことも病院に行かない大きな理由である。

市場には薬屋があるので，そこまでの距離を聞いたところ，2km以内の人は11人と比較的近くに市場はある。遠い人は4～5km離れている。交通はほとんど徒歩であるから，この人々にとって，病院へ行くのは大変なことである。

8. 電気の有無

13人に電気の有無を聞いたところ8人の家に電気がないと答えた。現代社会においてさえ電気のない生活をしている人が多い。

9. 家庭における婦人の役割

家庭における婦人の役割，収入源等について聞いた（表6）。役割は主婦で，仕事は農業と主婦業で収入はゼロである。婦人に「家での決定権は無し」が11人，有りとする人が1人，男女ともにあるとするのが1人あった。

婦人が問題にあたって「処理能力無し」とする人が12人，有りが1人。また，「婦人が法的権利に目覚めているか」の問いに対して，目覚めていないが12人，目覚めているが僅か1人であった。

バングラデシュでは1997年に女性に参政権[8]が与えられ，ユニオン評議会に3人の女性指定評議員席が与えられているものの，まだ女性の地位は非常に低く，しかも，農村の女性の地位は都会の女性のそれよりも低い。女性が社会で活躍するにはまず，教育の機会が与えられることが先決である。

10. 生活用水

飲料水，洗濯水，台所用水などの生活用水について調査した結果をのべる。

(1)飲料水

13人中11人が飲料水を井戸水に頼っている。その11人のうち，9人が浅井戸を使用しており，自宅からの距離は10m以内7人，30～500m以内2人である。残りの2人が深井戸に依存し，その距離は10m～1km である。河川水に頼っているのは2人で，距離は150m以内である。バングラデシュは井戸が普及する以前は川や池の水を飲用していたことから伝染病による死者が後をたたなかった。そのため，ユニセフなどの機関が中心になり，飲料水への地下水転換を約20年前に推奨した。現在では

第5表　病気になったときの対処

	病気への対応	悩み（通不：通信不足）（医不：医者不足）（病不：病院不足）			市場までの距離
1	医者	医不	病不	無知	4km
2	薬草	医不	無知		2km
3	医薬	医不	病不	通信	1km
4	医薬薬草	医不	通不		1.5km
5	医薬	医不	無知		1km
6	医薬	医不	病不		2km
7	医薬	医不	通不		1km
8	医薬	無知			1km
9	医薬	医不	無知		0.5km
10	医薬	医不	病不	無知	0.5km
11	医薬	通不	無知		5km
12	医薬	無知			2km
13	医薬	無知			1km

国民の95%が飲料水を地下水に頼っている[7]。本調査でも85%が井戸に頼っている。聞き取りしたところ，1人当たり1日の飲料水は約50リットルであると推定された。なお，中尾によれば都会人の使用水量は150リットル/日，農村では50リットル/日と推定されるという[4]。

(2)洗濯水

村にある池の水に頼っている人は4人，浅井戸は8人，河川水は3人である。浅井戸と池を併用している人が2人あった。

(3)台所用水

台所の水に池の水を使っている人は2人，浅井戸は9人，河川水は2人となっている。

以上のことをまとめると以下のようになる。浅井戸をこれらの3種の水に使っているのは7人，河川水を使っている人2人。残りの4人は用途によって使い分けている。このように目的に応じて水源を変えている。水汲みは女性の仕事である。毎日，水瓶を頭に乗せて水源地から家庭まで運搬するが，これは女性にとって重労働となっている。一つの水源で全てをまかなえる体制を整えることが必要である。

第6表　家における婦人の役割

	婦人の役割	収入	婦人の決定権	婦人の処理能力	法的権利に目覚めているか
1	主婦	0	無	無	無
2	主婦	0	男・女	無	無
3	主婦	0	無	無	無
4	主婦	0	無	無	無
5	主婦	0	無	無	無
6	主婦	0	無	無	無
7	主婦	0	無	無	無
8	主婦	0	無	無	無
9	主婦	0	無	無	無
10	主婦	0	無	無	無
11	主婦	3,000	無	無	無
12	主婦	0	無	無	無
13	主婦	0	女	有	有

11. 洪水

13 地区のうち，過去 5 年間に洪水に見舞われた地区は Khulna District の Shachubuniya 村のみである。過去5年間に3回洪水被害を受け，家畜（牛，ヤギ，鶏）はいうまでもなく，尊い人命も23人失われている（第7表）。洪水被害があれば，それを防ぐための土木工事が行われたり，あるいは他の地区に移住などの対策も取られるのが普通であるが，こういった対策が取れないところに，この国の苦しさがある。

第7表　過去5年の洪水被害

	1966	1998	2000
人	6	4	13
牛	15～20	17～22	18～20
ヤギ	18	24	16
鶏	56	28	44

第8表　集落全体のアンケート

	1	2	3	4	5	6	合計
婦人の職場の確保		2	2	6			10
教育施設	6			2			8
飲料水,	2	3			1		6
技術教育	2		1	1	1		5
健康知識の啓発		1	2			1	4
仕事の確保		3					3
農地の供給,	1				1		2
農業機械	1					1	2
通信施設			2				2
電気	1						1

12. 集落全体のアンケート結果

第8表に集落全体のアンケート結果をまとめる。「婦人の職場の確保」が10集落で挙げられ，一番多い。次いで，8集落が「教育施設」，6集落が「飲料水」，5集落が「技術教育」，4集落が「健康知識の啓発」，3集落が「収入のある仕事の確保」をあげている。その他に，2集落が「農地の供給」，「農業機械」，「通信施設」，1集落が「電気」をあげている。

おわりに

本研究では洪水被害のない12集落と洪水被害のある1集落の合計13集落において，主として，生活に関する要望事項や実態について個人と集団にたいしてアンケート調査を行った。その結果,次のようなことが分かった。

1) 個人に対する調査で要望の高かったのは，教育の改善，雇用の場の創設，バランスの取れた食事，全戸への配電，安全な飲料水，医療施設の充実などであ

った。

2) 集落全体への調査では,婦人の職場の確保,教育施設の充実，飲料水の順で要望が高かった。

このように，バングラデシュは未だ生活の基本となる衣食住が整っていない国であることが分かった。しかも，自力でこれらの環境を整備する経済状況になく，海外からの援助に頼っている[2] 。一日も早くこの状態を脱却し，自力で国を発展させる日の来るのを願うところである。

謝辞:本研究は科学研究費基盤研究 A(2)(代表京都大学防災研究所　岡太郎教授)の補助を得て行ったこと，現地調査では Bangladesh Institute of Nuclear Agriculture の Saiful Islam 博士の協力のもとに行ったことを付記し，ここに感謝の意を表します。

参考文献

1) 倉沢宰:バングラデシュの貧困と援助依存—独立後四半世紀を終えた今—, 愛知学泉大学研究論文集, 16:117～124(2000)

2) 向井史郎：バングラデシュ農村における通いの就業機会増加の可能性，アジア経済，42(12):42～70(2001)

3) 中尾忠彦:バングラデシュの水資源問題, 水利科学, 42(4): 12～37(1998)

4) Newton,A.Wagenhauser,B.and Murray,J.:Bangladesh(3rd edition), (1996) p.151，158，228

5) Noor Mohammed Kazi:Sanitation Strategies and Technologies for Flood-prone and High-Water Table Areas of Bangladesh, Research Seminar on Sanitation Strategies and Technologies,1～21(1999)

6) 笹口幸男(2000):ブリタニカ国際年鑑 2000，574～575(2000)

7) 末永和幸，応用地質研究会ヒ素汚染研究グループ：NGO が取り組むバングラデシュの地下水ヒ素汚染問題，地下水学会誌 42(4):329～430(2000)

8) トウシャル・K・ダス：バングラデシュにおける男女平等問題（一），法学志林:99(2)，75～150(2001)

9) 吉田勲,原田昌佳:バングラデシュの氾濫湖周辺住民の生活に関する研究，農村計画論文集,3:.91～96(2001)